～市長が語る～「わがまちの今・これから」主な質疑応答の要旨

日　時：令和元年５月１５日（水）１８：３０～１９：５０
場　所：長浦公民館　２階研修室
出席者：市長、企画財政部長、企画課長、財政課長、秘書広報課長　他
参加者：４８名（男性４０名・女性８名）

【市長説明項目】
第１部　わがまちの「今」
第２部　わがまちの「これから」

【主な質疑応答の要旨】
参加者：説明の中で、他の自治体との広域連携とのことですが、具体的な例はありますか。

市長：単独でやると効率的ではなく、連携をして一緒に行うと、人件費を削減できるなど効率的に行うことができます。君津中央病院は４市で設立し、一定の負担金を支払い運営をしています。その他にも、かずさクリーンシステムで袖ケ浦市、木更津市、君津市、富津市のごみを集約して処理をしています。４市がそれぞれ炉を作るということは効果的ではありません。また、水道の組織として、かずさ水道広域連合企業団を４市と県で作りました。袖ケ浦市の水道は、６、７割が君津広域水道企業団で水を作り配っていましたので、君津広域水道企業団を核にして、４市の水道事業を統合しました。職員の人件費等を、統合することにより減らすことができるほか、水道専門に職員を配置することにより技術の継承や人材育成ができます。袖ケ浦市や木更津市の水道事業の状況は良いのです。古い配管を新しくする点では、袖ケ浦市が１位なのですが、借金があります。１０年かけて、国の交付金を利用して備えをしていく予定です。火葬場の問題は、長年取り組みましたが、厳しい状況にあったところ、木更津市が建て替えの時期を迎えました。袖ケ浦市と木更津市の２市で一緒に進めようとしていたところ、君津市や富津市も、地元との問題により更新ができず、４市で進めるよう話をしているところです。市で行っている広域化の取り組みというのは、４市で進めた方が効率的なものであり、君津郡市広域市町村圏事務組合で運営する障がいのある人の通う福祉施設もあります。

参加者：海側の開発は進んでおり、マンションやホテルなどができてきましたが、道路網はどうなっていますか。

市長：消防署から下っていく道路は渋滞して大変でしたが、内陸部から海側を結ぶアンダーパスの開通により、渋滞は解消されました。金田のアウトレットからの道は、土日はアクアラインが大渋滞するため、下道を走るお客も右往左往している状況です。県事業で、中野畑沢線の計画がありますが、アウトレットの出口で止まっています。海側の区画整理まで延伸する予定で、事業化に着手し、用地買収をしています。他にも、高須箕輪田線が数年で完成する予定ですので、完成すれば、海浜公園への横道も開通することになります。また、金田インターの出口からの東京湾岸道路について国が主導して検討会を作りました。浦安、市川から来る湾岸地帯を通る道の建設を進めるためのものであり、これができると、国道１６号や海側に行く混雑が解消されますので、明日も、それらの要望に行くことになっています。

参加者：蔵波中周辺の小さく開発された住宅地は都市計画税を払っていますか。

市長：蔵波中学校周辺の小さい開発がされている場所は、市街化調整区域となります。市街化区域は住宅を建てていい場所ですが、市街化調整区域は、本来住宅を建ててはいけない場所ですが、隣接する住宅がおよそ４０戸あれば、市街化区域と同じような開発ができるという県条例を利用して整備されたものです。そこはもともとが市街化区域でないので、都市計画税は課税していません。